

9

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
13854001	分子系統学および化石記録に基づく日本の生物相の起源と形成プロセスの研究	小澤 智生 (名古屋大学・大学院環境学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>最新の分析技術をもとに、日本列島の生物相の起源の解明に真正面から取り組み、大陸である程度分化していた集団や亜種が日本列島に移入したという新しいシナリオを提示するとともに、従来研究の遅れていた中琉球の動物相の成立過程を具体的に示した成果はきわめて高く評価される。絶滅危惧種の保存のための研究としても貴重である。ただし、本研究の柱の一つと見られる陸生脊椎動物の分子系統学的研究について論文公表がなされていない点については不満が残るので、早急に公表することが望ましい。</p>			

10

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
13852016	プラズマイオン照射による新機能性進化ナノチューブ創製法の開発	畠山 力三 (東北大学・大学院工学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>カーボンナノチューブは既に量産されているが、その応用や普及に関する模索がなされている。この研究では、カーボンナノチューブに新機能を持たせることを目的として、アルカリ金属、ハロゲンのプラズマを利用して進化したナノチューブの創製に初めて成功した。カーボンナノチューブの中空部にアルカリ金属、ハロゲンを内包したカーボンナノチューブを合成し、その半導体特性についても評価した。</p> <p>この研究では、プラズマプロセスにより新機能カーボンナノチューブの作製に成功しており、多くの成果を公表している。研究目的の達成度は高く、また学術的貢献度も高い。一方、作製した進化カーボンナノチューブの応用や普及についての研究は十分ではなく、今後の課題である。総合的には、本研究は期待どおり進展したと判断する。</p>			